



社労士のつぶやき（76） 自助と最低賃金

去年の自民党総裁選で、菅義偉首相は政策理念として「自助・共助・公助」を掲げました。新型コロナウイルスで国民が苦しんでいる最中に「まず自助」と主張する菅首相に反発の声が高まりましたが、最近の国会答弁でも「考え方は変わっていない」と表明するほどですから、菅首相が根底から持つ政治理念だと思われます。私もこんなケンカ売の言い方をせんでもええのになあと感じていましたが、コロナと首相の「言い方」を横に置いて考えると、「自助云々」は別に間違った考え方ではないのです。もちろん正しい、とか賛成するということでもないのですが。

菅首相の考え方は、「小さな政府」論です。これは、福祉の充実と国営企業などを多く抱えた「大きな政府」をスリムにして、「民間の活力に委ね」て政府の関りを小さくする、という政策です。政府を小さくするのですから減税を伴います。だから選挙では「人気取り」ができます。古くは1980年代のJRやNTTの民営化、新しいところでは小泉首相の郵政民営化などがありました。菅首相の考え方もそういった類いです。首相就任直後に行った携帯電話料金の引き下げはその典型でしょう。まあ、減税は消費税のおかげで実感できないし、電波利用の許権限を持つ総務省は菅首相の「天領」だと言われているし、その許認可を得る側の放送会社の接待係が息子であったりと自助公助ではなく「公私混同」と揶揄されて眉唾モノの「小さな政府」ではありますが。

前置きはさておき、7月14日に厚労省の審議会は最低賃金の全国平均28円引上げを決定しました。例の如く労働者側は「1500円でも足りない」と更なる引き上げを主張し、経営者側は「コロナで大変だ」とゼロ回答で真っ向から対立していましたが、政府側からの強い押しで今回の決定に至ったとのこと。ワクチン接種が進んで経済が上向く」との説明でしたが、これも菅首相が掲げる「まず自助」の理念を実現させたものでしょう。まあ、実際に引上げる時期は9月末から10月初旬、つまり衆議院選挙や自民党総裁選の真ただ中で「良い宣伝材料」にしたいという思惑も透けて見えますが、労働者にとってはプラスになること間違いありません。でも社労士は・・・

今年から雇うバイトは最低賃金の928円（兵庫）以上にしなきゃいけない。でも去年920円で雇ったバイトは、それを大きく上回る昇給をしないとヤル気を無くしてしまう。そして経営者は「なんでこんなことすんねん！」と社労士に当たり散らすのです。はあ、憂鬱の秋です

社労士事務所アジュール 高 龍弘

燃料カードの価格表【2021年8月分】

AMSカード ※共通利用可能		ENEOSビジネスカード		全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行			
油種	ENEOS・Shell・COSMO	油種	ENEOS	油種	COSMO	ENEOS	宇佐美
レギュラー	143.0円	レギュラー	144.0円	レギュラー	141.5～143.5円	141.5～143.5円	142.0～144.0円
ハイオク	153.0円	ハイオク	154.0円	ハイオク	151.5～153.5円	151.5～153.5円	152.0～154.0円
軽油	125.0円	軽油	122.0円	軽油	118.0～120.0円	122.0～124.0円	120.0～122.0円
【価格は税抜】		【価格は税抜】		【価格は税抜】			
全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行							
油種	ENEOSウイング	FLEX & TRUST カード(Shell)	TRUST & FLEX カード(出光)	エネクスフリート			
レギュラー	141.0～143.0円	141.5～143.5円	142.1～144.1円	139.5～141.5円			
ハイオク	151.0～153.0円	151.5～153.5円	152.1～154.1円	149.5～151.5円			
軽油	115.9～117.9円	122.0～124.0円	117.3～119.3円	117.5～119.5円			
【価格は税抜】							